



社会医療法人近森会

発行

2016年7月25日

# びろっば

# 8

## Vol.361

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel.088-822-5231 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

## 近森教育研修センターオープン

### 地域の医療従事者が スキルアップできる施設に

近森教育研修センター長  
近森病院消化器内科部長 近森 正康



2016年5月に近森病院附属看護学校の新校舎が完成しました。

旧近森オルソリハビリテーション病院を改築した建物で、1階から5階までは看護学校に、6階から8階の3フロアを近森教育研修センターとして7月から稼働開始しています。

6階は、オルソ病院時代の多床室レイアウトを残して、病棟を想定したシミュレーション教育や、看護師特定行為研修の講義や実技実習に対応しています。

7階は、厨房や食堂に利用していた広いスペースを改築して大人数での心

肺蘇生や急変対応コースを行っていく予定です。8階は会議室になっていて講義などに利用できます。

近森会グループは以前より教育研修に力を入れており、セミナーやシミュレーション教育のコースを多数開催してきました。各コースを院内の色々な場所で行っていましたが、今後は広大なスペースを得たことにより、全てのコースを当センターで行うことが出来るようになり、施設利用管理や資材確保などが効率的に行えるようになります。

また、当センターは地域の医療関係

者にも広く利用していただきたいと考えており、新たな知識の習得やスキルアップのための生涯研修、交流の場とすることで、高知県全体の医療の質と医療安全の向上に貢献できればと考えています。

ちかもり まさやす

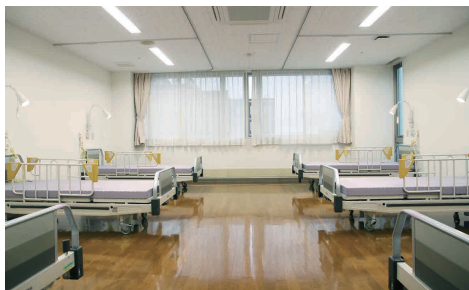
#### 近森教育研修センター

8F	オープンスペース×2、 会議室×1
7F	オープンスペース×3
6F	オープンスペース×3、 講義室×2、模擬病室×2
1～5F	近森病院附属看護学校

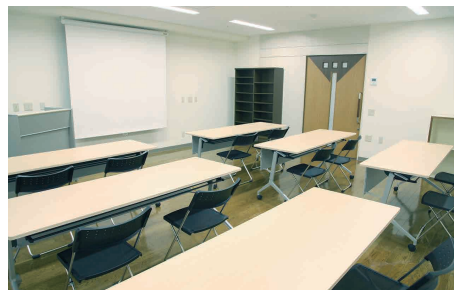
▼ 8階会議室 63席 (102.7㎡)



▼ 601号室 (43.4㎡) 模擬病室



▼ 603号室 (40㎡) 講義室



▼ 702号室 (170㎡) BLSの研修風景



▼ 605号室 (40㎡) 外傷コースの研修風景





近森病院麻酔科  
部長 楠目 祥雄

## 麻酔薬の一新



「もっと大声で叫ばないと！」むかし私が新人の頃、患者さんを麻酔から覚ます時に、先輩からそう叱咤されました。麻酔を止めて既に30分も経っているにも関わらずです。

すぐに覚めることは、手術患者さんの体への負担軽減、術後の安全性や手術室運営効率などの面でかなり重要な事ですが、今ではものの5分もすれば、

小声で呼んでもすぐにパチリと目が開きます。この20～30年ほどの間に、新しく替わった麻酔の薬を順に並べてみましょう。

- 吸入麻酔薬「セボフルラン」
- 静脈麻酔薬「プロポフォール」
- 脊椎麻酔薬「ブピバカイン」
- 局所麻酔薬「ロピバカイン」
- 鎮静薬「デクスメトミジン」
- 麻薬「レミフェンタニル」
- 筋弛緩薬「ロクロニウム」
- 筋弛緩回復薬「スガマデクス」
- 吸入麻酔薬「デスフルラン」

これらは総じて以前のものよりはるかに調節性が良く、副作用も格段に少なくなっています。

我々麻酔科医はこのすっきり一新さ

れた薬を上手に組み合わせることで、以前には困難だったような状況にも対応できるようになりました。例えば、吸入麻酔の向かない症例に対して、プロポフォールを用いて静脈麻酔薬だけで管理する「TIVA」という方法が編み出されましたし、全身麻酔や脊椎麻酔（いわゆる半身麻酔）自体が危険な症例でも、ロピバカインを用いた末梢神経ブロックとデクスメトミジンによる鎮静を併用することで手術を行うことが出来ます。このように、麻酔の確実性・安全性は昔とは比べ物にならないほど向上しました。

ただ、麻酔の革新には関連機器の進歩も必要でした。次回にその話をします。 くすめ よしお

## 8月の歳時記

### 百日草

近森病院本館 6階 C 病棟  
看護師 出口 奈緒子



夏の花について調べると「遠い友を思う」という花言葉をみつけました。夏といえば向日葵を思い

浮かべますが、この花言葉を持つ百日草も夏を代表する花の一つです。友人に関する花言葉があることを初めて知りましたが、これを機に久しぶりに県外の友人に電話をしてみようかなと思います。

でぐち なおこ



絵・近森病院  
附属看護学校  
事務局 南幸子

## 近森看護学校通信 10

### 「近森看護学校学園祭」開催案内 および「平成28年度オープンスクール」開催報告

10月8日(土)に看護学校にて『近森看護学校学園祭』を開催します。

近森病院附属看護学校と地域との結びつきを深め、人々の生活に貢献するために地域(学校外)の人々に学校を開放し看護学生の活動や看護学校の役割などを知ってもらうことを目的として開催いたします。

当日は、来校された方々の健康チェック、看護体験、バザー、模擬店など楽しい催物を準備しています。皆様のご来校をお待ちしています。

また、本年度も6月18日(土)に、第1回目のオープンスクールを開催いたしました。県下の高校生を始め60名程の参加がありました。「一次救命処置」の講義や、バイタル測定や手洗いの技術体験などを行いました。中でも、実習病院である近森病院の見学コース(ヘリポート、ER、ICUなど)



日時：2016年10月8日(土) 10:00 開始  
場所：近森病院附属看護学校

★近隣にお住いの方、学生さん、どなたも自由にご参加ください★

- ★健康チェック(骨密度、聴力、BMI、血圧測定)・・・普段と違う身体測定、あなたの健康をはかっていきましょう
- ★ステップパフォーマンスコンサート
- ★その他バザー・模擬店 カフェetc・・・他にもたくさん催物を用意しています。

※詳細情報は学校広報欄をご覧ください。

【お問い合わせ】〒760-0202 高知市大川崎1丁目6-8 近森看護学校事務局 TEL: 087-821-1111 FAX: 087-821-1112 URL: http://www.w.kinokuniya-hns.com

は人気があり、参加者のほとんどの方が見学を希望され大盛況の中終了いたしました。次回は、8月28日(日)を予定しています。(西本清香)



## 患者さん、そのご家族と よい関係を築くために

近森病院北館2階病棟

看護師長 佐野 登代子



北館2階病棟は重度介護病棟として位置付けられており、病床数28床の混合病棟です。主に内科の患者さんが多く、人工呼吸器装着中の方や心電図モニター管理などが必要な方も入室されています。

病室がワンフロアになっているため、認知症やせん妄状態の患者さんに

も目が届きやすく、すぐ対応できる環境にあります。夜間は、看護師3名とアテンダント1名の4人体制で対応しています。

他の一般病棟と比較すると重症度や介護度の高い、長期入院の患者さんも多く、定期的に医師、リハスタッフ、ソーシャルワーカー、管理栄養士、歯科衛生士など他職種との連携を図り、総合カンファレンスや退院・転院調整カンファレンスを行っています。

スタッフが力を合わせ安心して療養生活を送れる援助を行い、次（在宅・

病院・施設など）へ繋げていくことが出来るように支援を行っています。

病棟の今年度の目標として「患者・家族とコミュニケーションを図り、よりよい関係を築くことができる」を挙げています。ご家族が来棟されると笑顔で挨拶し、積極的にコミュニケーションを図り、受け持ち看護師は患者さんの状態などを伝え、不安の軽減に努めるなど、患者さんやご家族が安心して療養生活を送れるよう、またよりよい関係を築くために日々頑張っています。 さの とよこ

### ハッスル研修医

## 10年ぶりの高知県



初期研修医 太田 雄飛

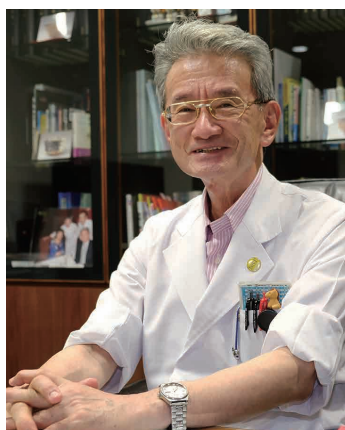
私の出身は千葉県ですが、少々訳あって高知県には高校の3年間だけ滞在しておりました。在学時にはラグビー部に所属しており全国高校ラグビー選手権大会に出させていただくなど本当に充実した3年間を送らせていただきました。

高知県を離れて10年、再び思い出の地に来て研修生活を送れることを日々誇りに思いながら研修に励んでいます。まだまだ至らない点が多く時に辛くなり、逃げ出したくなったりすることもあった最初の3カ月間でした。支えてくださった先生方、コメディカルの皆さんをはじめ近森病院の医療スタッフの皆さんに心より感謝いたします。

今後は、少し慣れてきた研修生活の合間に将来の自分の専攻を考え、それに沿った勉強も少しずつしていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくをお願いします。

おおた ゆうひ

## 再び、高知県の医療



近森 正幸

以前、今回の診療報酬改定で、高知県の医療はどう変わらざるを得ないかについて2回書いた。が、改定から4カ月が経って、医療の流れに明確な変化が始まっている。

改定の特徴は、消費税増税の再延長により、医療費を増やせる原資が枯渇していることから、きわめて厳しいものになっている。全体で1%ほどの減額と、それ以上に大きいのは、診療報酬の算定要件で入院できる患者さんが制限され、稼働率の低下が急速に起こっていることである。

急性期病院の在院日数と在宅復帰率、重症度、医療・看護必要度を満たす患者さんが25%以上というルールによって、重症の患者さんを早く

治して地域に帰っていただくことが強く求められている。つまり、病状の落ち着いた長期の患者さんは急性期病院には入院してられなくなり、一般急性期病院の空床が増えている。回復期の病院は在宅復帰率や重症患者割合、改善率で、重度の障害がある患者さんをリハビリし、速やかに地域に帰っていただくアウトカムを出さなければ、やっていけなくなっている。慢性期の病院も医療区分の高い患者さんを8割以上入院させなければ存続さえ難しくなっている。医療区分の高い患者さんは医療やリハビリの機能を有する病院に集まり、医療区分の低い患者さんは介護施設やサ高住などの施設に移行、慢性期の病院の空洞化が急速に進んでいる。

これまでの2、3年で徐々に変化があり、今回の診療報酬改定で急激な変化がもたらされている。全国平均の2倍の病床数と3.5倍の療養病床を抱える高知県は、人口が少なく患者数も少ないことから2025年から50年の日本の医療のあるべき病床数に近づいているように思われる。

人口当たり世界一の病床数を誇り、町のいたるところに病院がある高知の街並みも、これから大きく変わっていくのではないかと。

理事長・ちかもり まさゆき

## 3D Imaging Solution システムについて

～困難だった鏡視下手術での奥行きの評価が容易になり、手術時間の短縮と手技の安定化につながります～

近森病院外科

科長 辻井 茂宏



日本で初めて腹腔鏡下胆嚢摘出術が行われたのは1990年のことです。この年、スーパーファミコンが発売され、一大ブームとなりました。はまった人も多いのではないのでしょうか？

それはさておき、26年が経過した現在、鏡視下手術はその適応をどんどん拡大し、多くの癌の手術でも適応と

なっております。当院でも、胆石、虫垂炎、気胸、ヘルニアなどの良性疾患から肺癌、胃癌、大腸癌といった悪性疾患まで多くの手術が鏡視下に行われており、その割合も年々増加の一途をたどっております。

鏡視下手術は傷が小さく、術後の回復も早いため、「患者さんにやさしい

治療」といわれていますが、外科医にとっては開腹手術と比較し高い技術力が要求され、決してやさしいとは言えませんでした……。

しかし、今回の本システムの



3Dメガネ

導入によって、以前は困難であった奥行きの評価が容易になることで手術時間の短縮と手技の安定化につながっており、鏡視下手術は「患者さんにも外科医にもやさしい治療」となってきました。

手術機器の進歩には驚くばかりですが、我々外科医もより一層進歩し、さらに「患者さんにやさしい治療」を追求していきたいと思えます。

つじい しげひろ



## リレー エッセイ



学生時代の友達がよく夫をおいて関東から遊びにきます。数十年毎年の者や、年に2～3回やって来る者も。みんな「私に会いたくて」と言ってくれるのですが、高知の食と自然が好きようです。そんな彼女たちが先日東京で集まった際、恵比寿の安兵衛や銀座の長宗我部で食事をし高知話で盛り上がった、と聞き笑ってしまいました。

これまで桂浜、四国カルストなどは勿論のこと、マニアックな滝や、長宗我部、香宗我部などをテーマに城跡、お墓等を見て周ったこともあります。もう案内する所はないと思っていましたが、同僚から土佐清水の

## 高知の良さをあらためて知る

訪問看護ステーションちかもり  
看護師 林 良香



唐人駄馬を紹介され、今年も遊びに来た友達と行ってきました。梅雨の時期で連日雨続きの中、自称晴れ女の私達の力は強く、この日は晴れ！唐人駄馬はどうしてこんな山に大きな岩がこの様な形であるのかと思わせる場所で大きな一枚岩を登ると太平洋が望めパワースポットであることを感じさせました。

この後唐人駄馬を下って白ばえの竜宮神社へ足を延ばしました。褐色

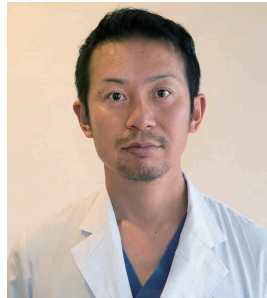


の花崗岩の海岸はスケールが大きく、自然の力を感じながら歩いて行くと海に突き出した岩の上に赤色の鳥居があり、圧巻の景色でした。夜は土佐清水の新鮮な魚を食べ、今回も友達と共に高知を満喫しました。今回も友達は高知産食材を買い込んで、帰って行きました。さて、今度はどこを案内しようかな。

はやし よしか

## 21st Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific 2016 参加

近森病院循環器内科  
部長 山本 哲史



2016年4月25～28日に韓国ソウルで開催された「21st Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific (TCTAP) 2016」に参加してきました。



本学会は若い医師に海外での発表を経験させる場として、毎年、後輩を引き連れて参加していますが、今年は古川大祐医師

とともに参加しました。山本が『A Case with Coronary Blowout Rupture Successfully Treated Using Two Guide Catheters.』、古川が『Usefulness of Crusade Catheter Supported Rewiring with Intravascular Ultrasound Guide for the Catheter-induced Coronary Artery Dissection.』という演題で2例の症例報告を行いました。

症例報告は Case Competition の形で行われ、最優秀演題には賞金が授与されます。今年は、なんと賞金が1,000\$にも引き上げられたため、いやがうえにも気持ちが盛り上がり、「今年は本気で狙いに行こう」（毎年本気で狙ってはいるのですが）と、万全の準備のもと、発表に臨みました。しかし、惜しくも??二人とも Award を獲得するには至りませんでした。TCTAP の楽しみの一つは日本各地からソウルに集まった Interventional Cardiologist 達と酒宴をともにし、多くの情報交換をすることです。

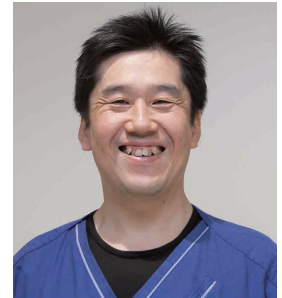


残念ながら今年は4月26日に当院から、他学会でのPCIのlive中継が予定されていたため、発表後1時間後には会場を後にしなければなりませんでした。毎年の楽しみソウルでの食事は、発表前日の見飽きた二人でのものとなりました。そういった意味ではいささか物足りないものとなりました。これからも臨床に力を注ぎ、来年も近森病院発の興味深い症例を発表したいと思います。

やまもと さとし

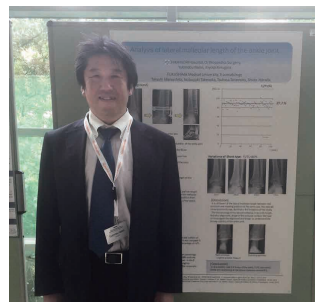
## 国際骨折治療学会と ムルナウ外傷センターの見学

近森病院整形外科  
部長 西井 幸信



ドイツのミュンヘンで開催された The International Society for Fracture Repair, ISFR 2016（国際骨折治療学会）に参加して足関節における外果の形態に関する臨床研究として Analysis of lateral malleolar length of the ankle joint の演題でポスター発表を行いました。

日本からは福島県立医大松下教授のグループ、帝京大の渡部教授、久留米大白濱教授のグループ、神戸大新倉先生のグループなどが参加されており口演、ポスター発表を行ってりました。



ISFR は比較的基礎的研究の発表が多い学会ですが、開催地のドイツでは100km圏内に TraumaCenter（外傷センター）が必ず一つは設置することが法

律できめられており、各施設には大勢の医療スタッフが常駐するとともに、症例が多いためにバイオメカニクス研究室を併設していることが多い現状があります。学会が終わった後は、今回の会長である Murnau Trauma Center の Peter Augat 教授のご好意により、福島県立医大松下教授のグループの先生方とともに Murnau Trauma Center の施設見学をさせていただきました。

Murnau は1万2千人程度の街でそこから100km圏内の患者がドクヘリ、救急車、Walk-in で24時間、365日来るということでした。日本とは制度が異なり法律施設基準等が決められているとはいえ、その施設の広さ、合理的な診療体制、常駐している医師および医療スタッフの数と医療スタッフを疲弊させないような体制、外傷センターに充実したりハビリ施設まであり、退院後の follow up 体制も整っているなど見習うべきところが多々あると感じました。



▲ムルナウ外傷センターのドクヘリ  
▼ムルナウ外傷センターの救急入口



にしい ゆきのぶ

## フルシーズン楽しめる

近森リハビリテーション病院  
6階西病棟  
介護福祉士 青木 祐人



自分はスノーボー、釣り、ゴルフなど多趣味で身体を動かすことが好きです。その中でもフルシーズン通してしているのが野球です。現在では4チームほどに所属してプレーしています。よく友人に言われるのが「そんなに野球チームを掛け持ちして疲れるろ」などいわれます。たしかに週4回程度仕事終わりに練習に行き疲れたりしますが、練習中全力で走って、練習後は雑談やご飯など行ったりしストレス発散にもなります。また試合では国体選手や凄い投手と対戦できるのが楽しみで試合をしています。中には接戦を制して勝った時の喜びも気持ちがいいものです。(笑)

野球をしていていいなと感じたこともあります。それは幅広い年代と交流できることです。下は小学生から上は60歳ぐらいまでプレーしている人達があります。色んな年齢層の方と関わる事で交友関係も広がるし、色んな話を聞けることで自分の知識にとってもプラスになると思います。仕事でも関わる患者さんもお年配の方が多いため、様々な話題を話すことができるのもいいと思ったことのひとつです。

今は右肩を壊して思う様にボール投げられませんが、左投げの練習をしております。いつか投手に戻れるよう頑張ってお練習をしていきます。

あおき ゆうと

## 臨床現場の支援

診療支援部医事課

課長 竹崎 智博



医事課は、管理部の中でも最も多くの職員（85名）が配置されています。大きく入院・外来に分かれており、業務内容は、受付や会計、未収金の回収、施設基準の管理、文書作成の補助や病院の統計データの取りまとめなど多岐にわたります。

なかでも、臨床現場のスタッフがおこなった診療行為を適切に請求する「保険請求」は、医事業務で最も重要といえます。コストの算定漏れは、病院の経営にも大きく影響するため、手術記録やカルテ記事等を何度も確認し、請求漏れがないか複数の目で確認しています。適切な保険請求を行うには、常に現場のスタッフと情報共有できる体制が必要であり、医事課からも各病棟に一名ずつ専属スタッフを配置しています。

一方、受付は病院の印象を決めるい

わば「顔」の部分で、臨床現場へ患者さんを繋ぐ大切な役割を担っています。このほか医師のサポートでは、文書作成補助や診療データの分析、結果のフィードバックなども行っています。

年々複雑化する診療報酬のなか、これまで以上に高い専門性をもった医事課職員が求められています。一人ひとりが保険請求のプロとして、そして病院の「顔」としての自覚を持ち、しっかりと臨床現場を支援して行きたいと思います。 たけざき ともひろ



## ワイン講座 ● 45

ぶどう品種を知り、個性を探る  
白ぶどう その22

## スペイン篇 チャレッコ

チャレッコは白ぶどうの中で最も抗酸化物質の高い品種。チャレッコは、スペインのスパークリングワイン、カバに使用される主要品種として知られていますが、近年の研究で、チャレッコのいろいろな優位性が明らかになりました。

カバは手頃な価格とその品質の高さから世界中で親しまれてきました。年々ほぼ順調に市場が広がり、2000年の3倍にあたる760万本強が昨年輸出されました。もちろん日本市場でも市民権を得て多くの人に親しまれています。

カバの瓶内熟成期間とブレンドされるぶどう品種を見ると、瓶内熟成が長いものほどチャレッコの比率が高く、トップクラスの品質のものに

チャレッコ・フォン・ジュイ/グラモナ/スペイン、カルルーニャ州、ペネデス地区 ● フォン・ジュイは畑の名前。平均樹齢40年以上のぶどうで造られ、フランス産オーク樽発酵、熟成をさせることで複雑な風味に。生き生きと感じ、継続する綺麗な酸味。白ワインですが、デカンタをお勧めいたします。摂氏12度から14度でお召し上がりください。

はチャレッコ100%のものも生産されるようになりました。近年ではこの品種100%のワインも生産されるようになりました。

チャレッコは、レスベラトロール（抗酸化物質、ポリフェノールのひとつ）を多く含んでいて、長期瓶内熟成を経ても酸化することなく熟成に耐え、酸度が高く、構成もしっかりしていることが特長です。



鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

### 第 105 回日本消化器病学会

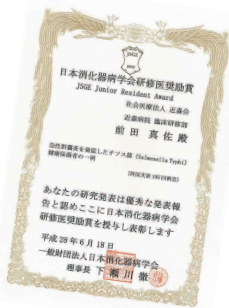
#### 研修医奨励賞受賞

初期研修医 2 年目  
前田 真佐



第 105 回日本消化器病学会四国支部例会にて、研修医奨励賞を受賞でき、大変光栄に思っております。ご指導いただいた消化器内科、外科の先生方には、大変お世話になりました。特に栄枝弘司先生、近森正康先生には、発表直前まで手直しなどで指導していただき、本当にありがとうございました。

今回の症例はチフス菌の慢性保菌者であり、こういった珍しい症例を発表させていただき、たいへん勉強になりました。これからも、発表さらに臨床面も、積極的に取り組んでいきたいと思ひます。 まえだ まさ



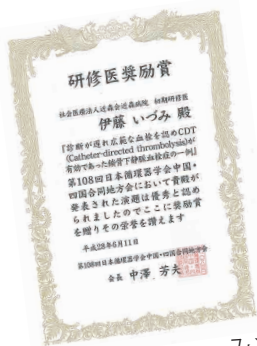
### 第 108 回日本循環器学会中国・四国合同地方会

#### 研修医奨励賞受賞

初期研修医 2 年目  
伊藤 いづみ



震災対策でよく耳にする「備えあれば憂いなし」。学会発表においても同様だと思ひながら、発表に臨みました。カルテを何度も読み返し、論文を読み、会場の下見をし……、加えて院内での予演会や上級医の先生方による指導、また関連する文献をいただくなど、強力なサポートを得られたことで、本番を憂いなく迎えることができました。こうした症例を経験できるのも、病院の信頼あってこそだと思ひます。素晴らしい環境で研修ができることに感謝し、この経験を診療にも生かしていきたいです。



いとう いづみ

### 第 116 回日本消化器内視鏡学会

#### 優秀賞受賞

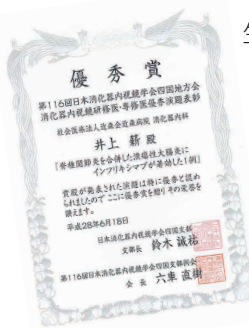
近森病院消化器内科  
井上 薪



四国内視鏡学会に参加し、炎症性腸疾患 (IBD) に関する症例報告をして参りました。IBD は合併症も多く、治療方針も多岐にわたる事から常に最新の知識を身につけていきたいと思ひます。

受賞の際に「指導医の先生方の日頃の教育がしっかりされているのだと思ひます」との言葉をいただきました。今後も周りに対する感謝の気持ちを忘れず、臨床、学術面ともに精進したいと思ひます。

いのうえ しん



#### お知らせ

第 33 回クリニカルパス大会  
「アブレーション心房細動」  
日時：9 月 12 日 (月) 18 : 15 ~ 19 : 30  
場所：管理棟 3 階会議室 2-3

#### 職員旅行

▼北海道の広大なゴルフ場で

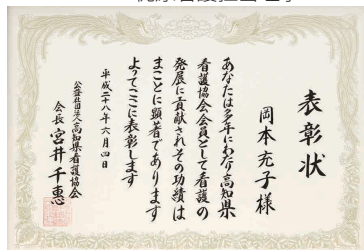


▼沖縄久米島にて、3 日間お世話になった船長さんと!



### 平成 28 年度 高知県看護協会会長賞を受賞

岡本統括看護部長 (左) と  
梶原看護担当理事



統括看護部長 岡本 充子

看護担当理事 梶原 和歌

受賞理由：老人看護専門看護師第 1 号として老人看護、退院調整等に取り組む他、看護協会の様々な研修講師として看護の質向上に貢献した。

受賞理由：長年、日本看護協会の委員、高知県看護協会の役員及び委員会委員等として看護の発展に貢献した。

# 高知県ドクターヘリ フライトドクター



近森病院救命救急センター (ER) 救急科

科長 井原 則之 (左)

科長 三木 俊史 (右)



2015年10月から高知県ドクターヘリのフライトドクターとして、週1回活動しています。平均すると1日につき3~4回ほどの出動要請に対応し、室戸、嶺北、仁淀、宿毛など県内全域の緊急を要する患者さんの対応をしています。



収容先として当院に搬送・着陸することも増えてきました。陸路で片道1時間のところがドクターヘリでは往復で20~30分程度と、患者さんの診察・対応をして病院に搬送するまでのスピードは卓抜したものがあります。



の利点をうまく利用しつつ、さらなる救急医療の向上を目指します。

いはらのりゆき/みきとしふみ



▲写真撮影には、高知医療センターと四国航空の皆様にご協力いただきました

## 近森病院附属看護学校新校舎完成記念



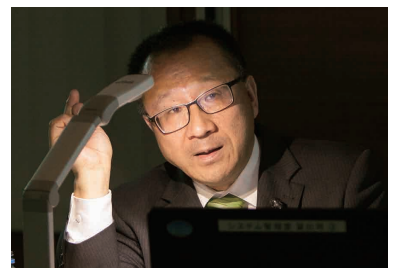
### 森耕治先生講演会

昼の部「巨匠の名画に隠された暗号」  
夜の部「オルセー美術館の印象派たち」

近森病院附属看護学校  
副学校長 尾原 喜美子

2016年7月12日

▼講師の森耕治先生



近森病院附属看護学校新校舎完成記念として森耕治先生特別講演「巨匠の名画に隠された暗号」、同日18:30からは同じく森耕治先生の「オルセー美術館の印象派たち」の近森病院特別講演会が開催されました。森耕治先生は現在ベルギーに在住し、ベルギー王立美術館公認解説者として活躍されている美術史家です。

川の中の島で日曜日を過ごす光景を描いたジョルジュ・スーラの『グランド・ジャット島の日曜日の午後』、ジャン＝フランソワ・ミレーの『晩鐘』、フェルナン・クノッフの『愛撫』を中心に解説されました。「オルセー美術館の印象派たち」では、フランスのオルセー美術館が収蔵する印象派のクロード・モネやゴッホといった画家の描いた作品について解説がありました。

講演会には250名以上の参加があり熱心なファンでいっぱいでした。

た。講演を聞いた学生は、絵画に対するイメージが大きく変わり関心が相当高まったと話し、絵画は、画家の生きた時代や文化の中で1枚の絵として描かれており、作品一つひとつには、画家の内に秘めた様々な思いが詰まっていることを感ずることができたと述べていました。

近森病院附属看護学校は「心豊かな人間性と高い実践力をもつ看護師」育成を目的としています。学生には、医療や看護の枠にとどまらず幅広い知識と教養を備えた人として成長してくれることを願っています。今回の講演が豊かな感性を磨く一つの契機となれば幸いです。 おはら きみこ



ゴッホ「カラスのいる麦畑」より

本講演会は、近森病院心臓血管外科入江博之先生のご尽力により開催できました。



## ニューフェイス

①所属②出身地  
③最終出身校  
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

2017年度  
近森会グループ

# 看護職員 採用試験

私たちと一緒に看護しませんか？



CHIKAMORI  
HEALTH CARE GROUP

8/6  11/26  2/24 

※詳細は近森会のウェブサイトに掲載。  
問い合わせ：社会医療法人近森会看護部長室  
メール：kango@chikamori.com

## 職員対象 第59回 チカモリ・シネマクラブ

## 人の動き 敬称略

## おめでとう

## 編集室通信

ご縁があって参加させていただいている月1回のワイン会。もう長年と言って良い私の心のオアシスです。ワイン好きという共通点だけで、年齢、性別、職業も違う同士が気心ゆるして語りつつ過ごす時間、パンとチーズは至上的ご馳走に、ワインは飲む宝石に。去年は父の介護でお休みしておりました…平穏な日常にも、感謝をこめて乾杯。 ひよん

## 図書室便り

2016年6月受入分

- 医療現場の英語辞典／山田政美（他編著）
- 平成28年度診療報酬改定「排尿自立指導料」に関する手引き／日本創傷・オストミー・失禁管理学会（編）
- 平成27年版新・看護者のための精神保健福祉法 Q&A／日本精神科看護技術協会（編）
- 看護管理者のための医療経営学第2版／尾形裕也
- 認知症・超高齢者の看取りケア実践現場でよくある22事例／島田千穂（他著）
- 別冊・医学のあゆみ大腸癌診療 Update／渡邊昌彦（編）
- 日本医師会雑誌, 第145巻特別号(1). 生涯教育シリーズ90アレルギー疾患のすべて／小川郁（他編集）
- 精神療法増刊第3号精神療法を教え伝える、そして学び活かす／中村伸一（他編）
- 老年精神医学雑誌 27巻増刊号II 第31回日本老年精神医学会プログラム・抄録集／斎藤正彦（他編）
- Emergency Care 2016年夏季増刊救急での動きかた・患者のみかた／芝田里花（編）
- Nursing BUSINESS 地域包括ケア時代の看看連携実践事例集／ナーシングビジネス編集室（編）

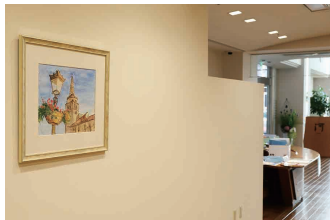
## 2016年6月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	19,386人
新入院患者数	1,013人
退院患者数	1,008人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	13.81日
地域医療支援病院紹介率	64.83%
地域医療支援病院逆紹介率	132.69%
救急車搬入件数	522件
うち入院件数	279件
手術件数	459件
うち手術室実施	324件
うち全身麻酔件数	180件

●2016年6月 県外出張件数●  
件数 79件 延べ人数 165人

# 「ときを経た壁は、自分で色を創る」

▶ 玄関ロビーに  
▼ フィレンツェ  
の街並み



◀ 自宅で妻の保子さんと談笑する馨さん  
▼ 2007年以來、年に一度開いてきた個展。最初は写真展から始めた。今年は、11月17日から22日まで、第10回池田馨水彩画展を帯屋町のギャラリー邦で開催予定



## 風景画のきっかけは妻の名案！

「馨」は明治中期の初代外務大臣、井上馨からとった。命名した父上とは3歳で死別したため、聴かされただろう意図は、記憶に残っていないという。

とはいえ、新校舎の完成した近森病院附属看護学校に飾られている風景画の作者として、ここに登場する馨さんの来し方は、国際色豊かというのか、日本の片隅で、身過ぎ世過ぎに追われる毎日がボヤけるようなスケールを持ち、父上が夢に描かれた「馨そのもの」が見えるようだ。

池田馨物語はまず、絵で描いたようななどでもいうのか、「立派な企業戦士」から始まる。早稲田大学入学のために上京。卒業後、日本の高度経済成長時代を立派な企業戦士で過ごし、第一次オイルショックの直前、昭和48年の春、家族で帰郷することになる。

昭和4年創業の家業の味處(料理屋)を継ぐためだったが、「高知に帰れば海外旅行ひとつ難しくなるのでは」という妻の名案！で、フランス、スイス、イタリアを巡る三週間の家族旅行に出発。溢れるほどに溜め込んできた馨さんの「絵心と呼び覚ますきっかけ」になったのが、いまから思えばきっと、この家族旅行でヨーロッパの風景を体験したことによるのだろう。東京時代、趣味の油絵で「佐伯祐三おぎすたかのりや荻須高徳に

傾倒して、壁や屋根ばかり描いていた」という馨さんは、彼らの題材の街並みを歩き、「(仏画家の) ユトリロがそこに居るような錯覚さえ覚えた」そうだ。

その目は確かに、企業人でも料理人でもない、すでに「画家そのもの」だったのだろう。「印象派の画家が描いた時代に想いを馳せ、風景を体験する」というフランス美術行脚が、以来、帰郷して以降もずっと続くことになる。

## 古稀の記念に水彩画へ

思い返せば小学校時代にお城のそばの藤並公園を描いた絵が一等賞になり、ずっと壁に飾られていて誇らしかった思い出があるそうだし、郷土の美術の英雄、横山隆一先生の義弟を「自身の父親と慕う」ような濃密な関わりを持った時期もあった。そんな影響もあってか、88歳で88点、90歳で90点の水彩画を描かれた横山先生に倣い、「70歳になった記念に油絵から水彩画に切り替えよう」と、絵筆にもさらに情熱が籠るようになってきた。

一方、大学時代の先輩から誘われ、パリの古城を模様替えしたホテルの会員権を買ったことがきっかけで、以来、「パリの田舎に取り憑かれ」現象が起る。高知日仏協会の副会長を務め、すでに40年に亘って高知とフランスの文化の橋渡しに努めてこられた馨さんの動静は、地元紙やWebでもしば

しば報道されている。

## 美しい村へのスケッチー人旅

フランスの都会ではない、ゴシック以前の古い建築物を訪ねて田舎へ。定期的に10日余りのスケッチー人旅に出るとか、世界のワイン通に贈られる「ワインの騎士」の称号を、高知でいち早く受けられたとかいう話も新聞に載っていた。

鉄道の駅さえなくて通り過ぎてしまいそうな、小さな田舎街にこそ「観るべきもの、学ぶべきものがあると、フランスに通えば通うほど、その想いを強くする」と、ボソッといわれる馨さん。だからといって、文化の伝道者でありたいとか、民度の底上げをしたいとかいった肩肘を張るイメージにはならない。

「ワインの騎士の称号、メリットは何もない(笑)。でも、ワインで交友は広まったし、やっぱりまず何でも気軽に楽しみたいわねえ」と、眉間の皺を解いて嬉しそうにニコリ。

日本の小さな村の売り出し方とか、古いものの残し方とか、持論には底なしの余裕が窺える。

漏れ承ったところ、過去帳で300年以上遡れるという池田家は、美術関係に造詣の深いお家柄らしいから、遠く引き継がれるDNAが何らか関係している、のだろうか……。